

国外宣教

1998年9月号 No.259
 発行・日本同盟基督教団
 国外宣教委員会
 印刷・株いなもと印刷

〈国外宣教35周年—1999—へ向けて〉

生意気言います

豊橋ホサナキリスト教会牧師 森川 昌芳



同盟教団の国外宣教は、来年で35周年を迎えようとしております。この間、多くの宣教師が起こされ、風土文化の違いを越えて労し、戦ってくださったこと、今も戦ってくださることに、厚く敬意を表する次第です。しかし最近私が感じることは、同盟教団の中に国外宣教熱がかつてより大分薄らいでいるのではないかということです。これが私ひとりの心配であれば幸いです。

私が34年前、初代の（国外宣教）部長を任ぜられたとき、どこへ行っても国外宣教に対する賛否両論で花が咲きました。当時は「時期尚早論」が圧倒的で、たえずその論争的とされていましたが、それだけ同盟教団の牧師たちが国外宣教に関心を持っていたということだったのでしょうか。牧師が関心を示さないのは、それを無視しているからでしょうか。

その後、実際宣教師が起こされて、台湾、インドネシア、またタイに遣わされることによって、教団の中に自ずと国外宣教熱が広まりました。しかし最近、一部の牧師たちを除いては国外宣教についての論議が殆どされなくなったように思われるのです。

そしてこれが事実であるとしたら、これ

は同盟教団にとってゆゆしい問題であると思うのです。なぜなら教会の頭でいます主イエスをご覧になっているのは全世界であるからです。主は「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」（ヨハネ4:35）また、「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」（使徒1:8）とおっしゃっているからです。そうしますと、もし世界宣教を念頭に置かない教会があるとすれば、それは頭でいます主イエスから離れた、聖霊を内に宿していない教会になるのではないのでしょうか。そしてもしそうだとしたら、その教会で毎週みことばを取りつぐ牧師に大きな責任があるのではないかと、自らを深く反省しているのです。つまり自分の牧する教会が、常に世界宣教に目覚めていないとしたら、その牧師の聖書の読み方、解き明かしがどこか違うのではなかろうかと自分自身に言い聞かせているのです。主イエスの宣教命令は今も変わりありません。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ16:15）と。

ネパール極西部の新しいプロジェクト※について

ネパール医療宣教師 吉持 巖信・弘子

新しいプロジェクトの候補地を探るため、今までに約10箇所程の地を訪ねました。前回書かせていただいたピピコットもそのうちのひとつです。現在私たちが考えている新しいプロジェクトの候補地の条件は、

- 1) 霊的な必要のあるところ。(未伝地)
- 2) 医療的に必要のあるところ。
- 3) 車が通ることのできる道があること。
- 4) TEAMに対して歓迎的な地域。
- 5) 安全性がある程度保証できる地域。

等です。この内1)、2)、4)については、何の説明もいらないでしょう。3)については、病院を建てる際、また病院に薬などを補給するのにも、車の通れる道がないと約2倍の費用がかかる。5)については、ネパールの一部の山岳地域では、最近、毛沢東主義者と名乗る人々のテロ活動が活発化していること。

候補地を訪ねるにあたり、いろいろな現実を知らされました。それは以下の点です。

- 1) ネパール極西部はほとんどが未伝の地であること。
- 2) 幾つかの地域では、諸外国の援助、あるいは世界銀行からの融資により病院の建物だけは建っていたが、病院が全く機能していないこと。
- 3) 多くの地域で医療水準が

とても低かったこと。

この内、2)については、アチャンのサフェというところを訪れた時の話ですが、山の上に巨大な病院が建てられていました。建物はオランダからの援助で建てられたようですが、これからどうやって運営していくかは、めどがたっていないそうです。大きな病院は運営するにも多くのお金がかかる。国際援助というものが、一時的で大きなものより、小さなものでも継続的なものの方がよほど大きな援助ができるのだと、思わされました。皆さんが続けて私たちを支援してくださることは、ネパールの人たちにとって、本当に大きな援助なのです。

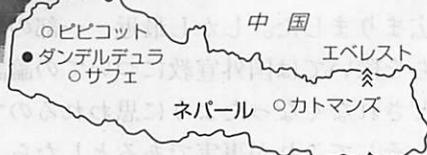
新しい候補地のための祈禱課題

- 1) よい候補地を選ぶために知恵が与えられるように。
- 2) 新しいプロジェクトの同意書がネパール政府との間で良い条件で結ばれるように。
- 3) 新しいプロジェクトのための経済的必要がみとされるよう。
- 4) 新しいプロジェクトの為の人的必要がみとされるよう。看護婦は特に必要です。

皆さま、これからも続けてネパールのためにお祈りくださり、ご支援ください。



アチャン・サフェの病院の建物
運営のめどがたっていない



※TEAM ネパールによるプロジェクト。まだ病院のない地域に新しく病院を建てるため、候補地をさがしている。

共に成長するために

タイ宣教師 松下展久・紀美子

2年4ヶ月振りにタイから帰国し、支援ブロックを中心に約1ヶ月間で30の教会と4つのキャンプを訪問・デプテーションさせていただきました。スピードのタイ宣教から、じっくりみことばに聞き入り、報告に耳を傾け、かみしめるように、また心を注ぎ出すように応答の祈りをしてくださった日本の多くの兄弟姉妹方の姿が印象的で大変感激しました。さらに、次々と意欲的に質問してくださる姿にも感謝しました。

訪問先の教会の先生方、兄弟姉妹方が本当に配慮してくださり、特に車もお貸しくださったことで、家族で日本縦断デプテーションができましたことを、改めて御礼申

松下宣教師一家



上げます。神様が行く先々で、祈りの中でお会いしたかった方々と不思議に会えるようにしてくださり、御名をあげました。

8月31日(月)、タイへ戻ります。神の子として成長しつつあるタイの兄弟姉妹たちが、さらに「キリストにある成人として」(コロサイ1:28)立つための手助けを、タイフィールドの先生方と共に協力してやっていきたいと願っています。そして、今まで以上に日本の教会の皆さまとタイの兄弟姉妹方が、共に成長していけるような体制を築いていきたいと祈っています。

松下宣教師一家の報告会に出席して

横浜上野町教会 宝子山千鶴子

3月末、当教会で「世界宣教の祈りと献金の時」をもった際、祈りの中からタイの松下展久ご夫妻のお働きに目が留まった。松下師は、(タイから)多くの祈祷課題と共にスライド・パネルを送ってくださった。

そして7月、松下師ご一家は帰国の折、当教会を訪れてくださった。「これから皆さんに質問をします。当たった人にはプレゼントがあります。」と元気な夫人の声。地図とスライドを前に「タイの首都はどこですか!」「タイにはいくつの同盟の教会があるでしょうか!」このクイズ形式は、漠然と聞いていた私たちを俄然活気づけ、真剣に耳を傾けさせるに充分であった。貧富の差が激しく、食料のある時のみ空腹を満たす階層の人、信仰年数2年で元の生活に戻ってしまう人々。スラム生活で心も身体もボロボロの中で、松下師ご夫妻を通してイエス様の愛を具体的に知っていく。御言葉を学びながら人としての尊厳を取り戻すことによって神のみこころを行うように牧会される師ご夫妻のご労には並々ならぬ忍耐と祈りがあると思う。しっかりタイの状況がインプットされ、これからも



報告会の様子(横浜上野町教会)

祈り続けていくことが出来るよう、そしてまたこのようにしてお証しを通して学び、共に主の業に参加させていただける恵みを心から感謝した。タイはもうよその国ではなく、祈りにおいて身近な国となった。それが嬉しかった。

松下宣教師一家は、7/27(月)～8月末までのデプテーション(宣教報告)を終え、8/30(日)茨木聖書教会にて派遣礼拝を行い、8/31(月)関西空港よりタイへ戻ります。受け入れてくださった諸教会の御配慮と皆さまのお祈りを心から感謝申し上げます。これからの働きのため、続けてお祈りください。 国外宣教委員会

ワンファン

万芳社区での宣教

ワンファン 万芳教会婦人会

台湾宣教師 鈴木 敏子



万芳婦人会

いつも万芳教会を覚えてお祈りくださりありがとうございます。

万芳社区 (community) は、政府が退役軍人のために山を切り開いて作った社区の一つですので、緑に囲まれた美しい所です。最近ではモノレールも通り、交通も便利になって、移り住んで来る人も多くなってきています。

現在、台湾の一般的な傾向として、殆どの主婦が職場に出て働くようになり、万芳教会も私の行きました時から、松年会 (老人のため) はあっても、婦人会はありませんでした。

万芳社区の人々 (婦人) とコンタクトを取るために、手っ取り早い方法として、生け花、手芸、お料理などを教えながら、伝道することに致しました。初めの一時間は、讃美と聖言の学びをし、残る一時間半は、これらの事を教えています。不思議なこと

に、日本食は健康食と思われて、人気があるのです。手芸は、家に針も糸もないという人が多くて、びっくりしました。これも時代の反映かと思われています。月謝は取らず、材料費だけです。結構喜んで来ています。聖書の学びも、全員が未信者ですので、初めは何のことかわからなかったようですが、最近では心を開いてよく質問も出ます。

この婦人会を始めました頃、他の教会でも松年大学 (老人の学び) というのを開いて同じ様な活動を始めました。内容は、それぞれの教会によって違いますが、伝道の一環としているようです。

今年3月に召された王胡春月姉妹は、町角にピラを貼ったり、たくさんの人を連れてきてくれました。私にとって一番困りましたのは、中国語で花の名前とか、料理用語が分からなくて、辞書と首っ引きで準備をしなければならず、説教の準備より大変でした。最近では、陳麗卿姉妹が、お花を受け持ってくれるようになり、大変助かっています。この機会を通して、これらの人々が、一日も早く、救いにあずかるようにと祈りつつ、奉仕に励んでおります。

お祈りいただけましたら幸いです。

■ 国外宣教短 信 ■

- ◇タイの田口倫子宣教師は、第一期の働きを終えられ、9月29日(火)に帰国し、11月26日(木)まで各教会をデプテーションのため訪問する予定です。移動が守られ、デプテーションが祝されるようお祈りください。
- ◇中村孝宣教師は、通院治療を続けています。回復のためお祈りください。

国外宣教研修会

とき：11月23日(月)

場所：茨木聖書教会

皆さまふるってご参加ください。